

(科目コード : 2001320174KK)

【改訂】第15版(2017-03-21)

【科目】比較社会史

【科目分類】一般科目 【選択・必修の別】必修 【学期・単位数】後期・1単位

【対象学科・専攻】物質 4年

【担当教員】宮川 剛

【授業目標】

20世紀の歴史を学ぶことにより、現代世界の課題を見出し、その解決に向けて思考し、行動するための知的訓練を積むことができる。

20世紀の世界の諸地域における歴史的事象を、諸地域間の相互関係のもとに理解することを通じて、世界の一体化の実態について新たな視点を獲得できる。

20世紀の歴史をグローバルヒストリーの観点から解釈することにより、歴史的事象を多様な角度から考察するための知的訓練を積むことができる。

20世紀の歴史についての現在の研究状況の一端に触れることを通じて、偏狭なナショナリズムや偏見にとらわれることのない、他者との相互理解を目指す歴史認識を身につけることができる。

【教育方針・授業概要】

・本科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。

・講義や教科書の講読を通じて、20世紀の世界史の基本的な知識を身につける。

・講義の内容に関係する資料や参考図書を読み込み、少人数での議論などを通じて、20世紀の世界史を多様な観点から考察し、学習内容の理解を深める。

・授業内容についての小論文や冬休みのレポート課題の作成を通じて、学習内容の定着を図るとともに、自らの見解を論理的に表現する訓練を行う。

【教科書・教材・参考書等】

教科書：20世紀の歴史：木畑洋一：岩波書店

【授業形式・視聴覚・機器等の活用】

講義形式で行う。講義の内容や文献・資料の講読にもとづいたグループでの議論や小論文の作成なども実施する。

【メッセージ】

1年次の「歴史」の授業内容を復習しておくことが望ましい。

【成績評価方法】

[後期]中間試験：30%、期末試験：30%、レポート：20%、授業中に行なう課題の提出：20%

【達成目標】

	達成目標	割合	評価方法
1	1 20世紀の歴史の主要な問題について理解する。	50 %	中間試験15%、定期試験15%、レポート10%、授業中の課題10%
2	2 グローバルヒストリーのアプローチを学ぶことで、物事に対して多様な視点から考察する訓練を積む。		中間試験15%、定期試験15%、レポート10%、授業中の課題10%

【本校の学習・教育目標】

(A-1) 人文社会系の科目の学習を通じて、人間文化と社会生活について理解する。

【授業計画】(比較社会史)

回数	授業の主題	内容	レポート	宿題
1回	ガイダンス	20世紀の歴史をいかに理解するか。 「長い20世紀」について。		
2回	帝国主義の時代	20世紀の背景はいかに形成されたか。 ・列強により分割される世界 ・帝国主義の背景 ・支配と被支配の構造		
3～5回	第一次世界大戦とその影響	世界大戦は、列強およびその植民地に及ぼした影響を及ぼしたか。 ・第一次世界大戦と総力戦 ・帝国支配の動揺と再編		
6～7回	世界恐慌と1930年代	恐慌が世界に与えた影響について。 ・世界恐慌の影響 ・恐慌後の欧米 ・1930年代のアジア		
8回	中間試験			
9～12回	第二次世界大戦	第二次世界大戦が植民地帝国に及ぼした影響。 ・大戦の背景、経緯、結果 ・ヨーロッパにおける戦争 ・アジアにおける戦争		
13～15回	現代国際体制の成立と展開	戦後世界において植民地の独立と冷戦はどのように関連していたか。 ・脱植民地化の進展 ・冷戦の展開 ・「長い20世紀」の終焉		